

# 道 徳 部 会

## 研究主題 思いやりの心もち、進んで実践しようとする子どもの育成

### 1 主題について

昨年度に引き続き、他者を思いやる気持ちや豊かな人間性を育成することをねらいとして本主題を設定した。

### 2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月13日	第2回総合研究会 授業研究会（上川沿小学校）
8月18日	指導案検討会（上川沿小学校）		

### 3 研究内容

#### (1) 授業研究

- ・期 日 11月13日（木）
- ・主 題 2年「みんなのものを大切に」  
4－（1）公德心、規則の尊重
- ・資 料 「きいろい ベンチ」（どうとく2 みんなのしく 東京書籍）
- ・会 場 大館市立上川沿小学校
- ・授業者 櫻庭 晴美

#### ① 授業者から

- ・普段きまりを守らなければいけないと分かっている、なかなか実際の行動に結び付いていないということがある。学級力アンケートでは「生活のきまりを守る」という項目が全8項目の中で一番低く、子どもたち自身もできていないと感じていることが分かった。
- ・発問がはっきりとしなかったため、子どもたちが何を答えたらいいのか分からない場面があった。また、子どもたちに問いかけたのに子どもを待たせて教師が話した場面があった。子どもたちの言いたい、考えを伝えたいという思いにブレーキをかけてしまった。
- ・役割演技の時間が長かったかもしれない。出してほしい言葉があったため、のぼしてしまった。
- ・自分を振り返る場面では、現段階の子どもたちは「しかられるから」ということが自分の行動を規制する大きなポイントになっていると感じた。

#### ② 協 議

- ・子どもたちの反応がすごくよかった。ハンドサインが活発で、「つけ足しします」という声がたくさんあり、広がりを感じる授業だった。普段からの積み重ねが感じられた。
- ・今日の場面設定は雨上がりだったので、ベンチに上がったことが靴の泥の汚れで分かったが、その時の発問として「天気の良い日だったら、ベンチに足跡がつかないから上がってもよかったのかな。」「だれもこなかったら、知らんぷりしていたのかな。」という揺さぶりもあるのかなと思った。
- ・自分を振り返る場面のとき、導入で使った写真を使えば、先生が途中で修正した「みんなで使う物」にうまく流れたのではないか。
- ・終末では、子どもたちが聞きたくなるような手紙の提示の仕方でもすばらしかった。
- ・最後の振り返りで約束を守ったことについての話もあれば、「約束やきまりを守るとみんなが気持ちよく生活できる」につながり、手紙にもうまくつながったのではないか。
- ・子どもから公共のものにつながる発言が出ていてよかった。

- ・実践ということを考えると、最初の写真をどう意識させてつなげていけるかが大事。どの場面で写真を生かしていくかを意識すればよかったのではないか。

## (2) テーマ研究

- ・「わたしたちの道徳」の各校での扱いについて情報交換をした。

## (3) 指導助言（北教育事務所 指導主事 鈴木 正樹）

- ・返事やあいさつ、聞く姿勢など学習規律が身に付いていて、子どもたちがよく育っている。
- ・ハンドサインや話型を駆使しながら自分の意見をどんどん出せている。意見を出せる雰囲気が大切。お互いを認め合える、受容的な雰囲気になっていたことがよかった。
- ・みんなで使うものの写真を提示し、気付いたことを発表させた導入がよかった。資料でねらっている道徳的価値の自覚に向けて、自然に動機付けが図られていた。
- ・関連構想図がしっかりと考えられていた。10月の生活科の授業をうまく結びつけていたし、11月の生活科の授業へのつながりなど、前後の行事や他の活動と本時が結びついている。
- ・役割演技では、実際に黄色いベンチが登場し、子どもたちが生き生きとしていた。子どもたちの思考が活性化された。
- ・終末段階の手紙は、自分たちの活動の意義を感じ取ることができる内容であったので、価値の意味付けに役立っていた。
- ・最後の振り返りの場面にもう少し時間がほしかった。そのためには発問の吟味が大切。発問の2つ目と3つ目は、一つの発問でもよかったのではないか。主人公の気持ちに変化した場面を考えさせたいので「おばあさんの言葉を聞いてどう思ったんだろうね。」という問いが考えられる。分割したことによって同じような意見になってしまったのではないか。
- ・発問を長くするほど子どもたちの考えは限定されていくため、多様な意見が出てこなくなる。一つの場面をシンプルに聞いた方が発問の作り方としてはよい。
- ・道徳の年間指導計画や全体計画の別業を整備すること。しっかりとした年間指導計画や別業を整備することで、全教師が協力して教育活動全体で道徳教育を展開できる。
- ・「わたしたちの道徳」については、道徳の時間だけでなく学校の教育活動全体を通じて活用してほしい。学校に据え置くのではなく、一人一人に配布して児童が自主的に読んだり考えたりすることができるようにする。家庭や地域で十分に活用されるように、お便りや保護者会などで知らせるなどの方法も考えられる。
- ・今年度は「わたしたちの道徳」の活用の仕方について模索する年ととらえ、活用した成果を来年度の年間指導計画に反映させていくようにしたい。

## 4 成果と課題

## (1) 成果

- ・関連構想図がしっかりと考えられていて、他教科との関連が授業にうまく結び付いていた。
- ・導入の写真、終末の手紙が、ねらいとする価値にせまっ

## (2) 課題

- ・ねらいにせまるための中心的な発問の吟味をする。それを生かすために前後の発問を工夫していきたい。
- ・問い返したり、揺さぶりをかけたり、グループで話し合いをさせたりなど、子どもたちから多様な意見を引き出す展開を考える。



【黄色いベンチの前で役割演技】